

電磁波吸収テープ NRF-005T の導入(25)(HP 収載)

－NRF-005T 貼り付け銅板(1)－

1. 始めに

前報(24)に引き続き、旭化成の Pulshut を応用したオヤイデの電磁波吸収テープ NRF-005T のアースの取れない機器への適用を検討します。

2. 電磁波吸収テープ NRF-005T の試聴方法

アースポイントがないか、適当な空きポートがないかという理由で仮想アースの適用ができない機器があります。そこで NRF-005T を天板や底板に貼り付けることも考えられますが、銅とベークライトからなる基板作成板に NRF-005T を貼り付けて、機器の天板上に敷くことを考えました。このような方法は、以前から木炭/竹炭シート、銅板、センダストシートなどで試みてきた方法です。

今回は、銅板側に NRF-005T を貼り付けた基板作成板を準備しました。そして銅板側を機器の天板側に接触するように敷きます。



設置対象機器は、既に何らかのかたちで仮想アースを設置している機器を除き、次のとおりとしました。

パッシブアテネーター：FIDELIX TruPhase

DAC：インフラノイズ DAC-1

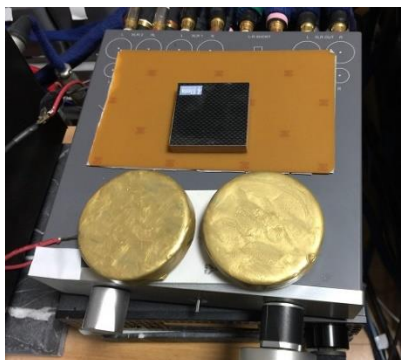
クロックレシーバー：インフラノイズ CCV-5

クロックレシーバー：インフラノイズ CRV-555

適用する再生経路は次のとおりで、以下の*印の機器の天板に敷いてみます。

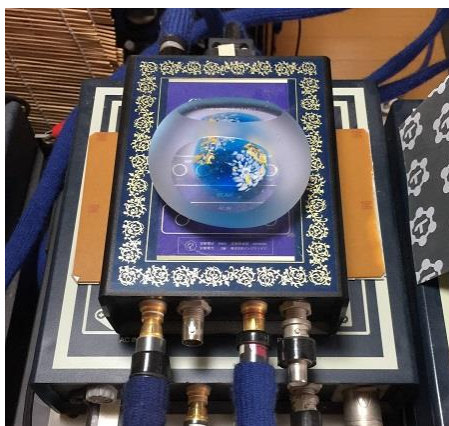
アナログ再生系

LINN LP-12→ZANDEN Model 120→Brooklyn DAC+→TruPhase(*)



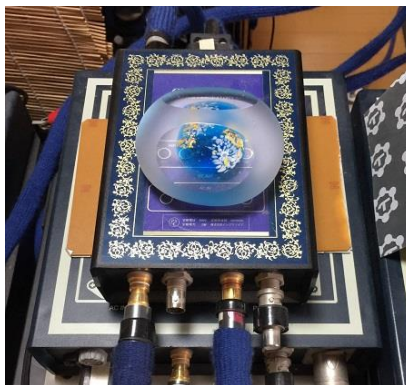
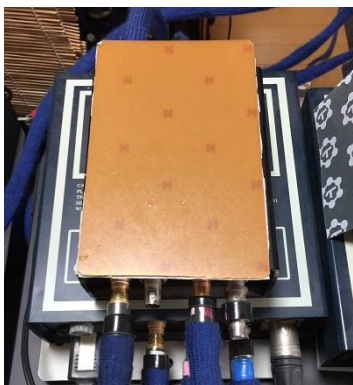
CD再生系A

EMT981→CRV-555(*)→DAC-1(*)→TruPhase



CD再生系B

47研4716→CCV-5(*)→DAC-1(*)→TruPhase



以上のEMT981、CCV-5およびCRV-555には、GPS-7777から44.1KHzのクロックが供給されています。

なお、TruPhaseの筐体はアルミ製ですが、DAC-1、CCV-5およびCRV-555の筐体は樹脂製です。

LP-12によるアナログ再生では、下記を試聴しました。

Archiv 28MA 0020

J.S.バッハ チェンバロ協奏曲

トレヴァー・ピノック指揮イングリッシュコンソート
harmonia mundi KUX-3248-H

中世古謡ミトマニア
ベーレン・ゲスリン

CDの再生では、下記を試聴しました。

Hyperion CDA67993

ウジェーヌ・イザイ 無伴奏ヴァイオリンソナタ
アリーナ・イブラギモア（ヴァイオリン）

Archiv POCA-1132

モーツァルト・ハイドン・グルック オペラアリア集
アンネ・ゾフィー・フォン・オッター（メゾソプラノ）
トレヴァー・ピノック指揮イングリッシュコンソート

3. 電磁波吸収テープ NRF-005T の試聴結果

LP-12 によるアナログ再生では、NRF-005T を貼り付けた基板を TruPhase の天板に敷きますと、バッハのチェンバロ協奏曲は、チェンバロとバロックアンサンブルの音の多少残っていた滲みが後退し、演奏内容が明瞭に捉えられます。

ミトマニアは、これも男女のボーカルのニュアンスが明瞭になり、バックの中世の古楽器の質感が向上します。

CD 再生経路 A の CD 再生では、CRV-555 への適用、DAC-1 への適用とも、イザイの無伴奏ヴァイオリンソナタも、オッターのオペラアリア集もほとんど変化はありませんでした。

同様に CD 再生経路 B の CD 再生では、CCV-5 への適用、DAC-1 への適用とも、イザイの無伴奏ヴァイオリンソナタも、オッターのオペラアリア集もほとんど変化はありませんでした。

そこで、CD再生系Aで、アナログ再生系の場合と同様、終段のTruPhaseに適用しますと、イザイの無伴奏ヴァイオリンソナタも、オッターのオペラアリア集もヴァイオリンや歌唱のニュアンスが把握しやすくなりました。

以上の結果から、今回製作したNRF-005Tを貼り付けた基板作成板は、TruPhaseに適用することが良さそうです。

4. まとめ

NRF-005T を貼り付けた基板作成板を、仮想アースを設置していない、TruPhase、DAC-1、CCV-5、CRV-555 に適用したところ、TruPhase において効果を認めました。

以上